



# 時 報 幼 栃

題字／栃木県知事 福田富一氏

第151号

令和5年3月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／齋藤 君世 ●発行人／船田 弘和  
■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



## 令和四年度を振り返って

栃幼連理事長 船田 弘和



令和四年五月、コンセーレに於いて開催された（一社）栃木県幼稚園連合会通常総会にて、理事長を拝命し、加盟園の設置者・園長先生のご協力をいただき、どうか一年が過ぎようとしておりますが、日々思うことは、この職責を果たし、歴史をつないでこられた、歴代の理事長先生方に改めて尊敬の思いが溢れるとともに、自分に課せられた責任を痛感しております。

今年は特に理事長として初めての職務が多く、緊張感をもって事に臨むことをモットーにし、状況の理解と判断に努めている一方で、自園に

いられることのありがたさも含めて、以上に実感しております。

さて、栃木県幼稚園連合会といましては、栃木県幼稚園振興連盟の石嶋会長、栃木県幼稚園振興財団の金子理事長、栃木県幼稚園PTA連合会の大竹会長と共同して、栃木県の子どもの健やかな成長のために、十地区の実績ある百八十六の加盟園の地域の教育・保育拠点が役割を果たせるよう、力を結集して振興活動に臨んでおり、今年度の活動の成果が実りつつあります。

コロナ禍も三年目を迎え、感染症の類型も五類に引き下げられようとしております。この三年間の不安で窮屈な暮らしは、少子化を加速させるとともに、今を生きる子どもたちの心の成長と安定に、大きな影響が表れております。言い換えれば私たちが担うべき社会的役割はますます大きくなると考えられます。

全日では、無園児を幼稚園・こども園の専門的な環境を活用しての子育て支援や、近年増えている環境の変化に敏感な小学生（卒園生対象）のために、母園の学校としての役割を活用し、長く過ごしてきた環境の

中で精神的な負担を軽減して授業を行うことは可能かなど、幼稚園・こども園を核に、〇歳から卒園生に至るまでの新たな発展的取り組みを模索し精査して関係省庁に提言しようと言いつ試みが検討されております。

四月に発足することも家庭庁は「こどもまんなか」をスローガンに大綱が纏められつつありますが、その取組の充実・強化のために、当事者（こども）の視点、現場感覚を伴った政策立案・実施「こどもの意見を年齢や発達の程度に応じて反映」とあり、労働力確保の保護者中心の支援により、軽視された子どもの人権に軸足を移した政策の実現に期待をしているところです。

今年度における自らの姿勢を顧みるとともに、お支えいただいた皆様へ感謝申し上げます。来年度もご指導・鞭撻のほど重ねてお願い申し上げます。

## 令和四年度を振り返って

こども政策課長 谷田部 貴



各園の皆様におかれましては、日頃より県の子ども・子育て支援施策の推進並びに新型コロナウイルス感染症拡大防止等に御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大が始まってからというものの一日も早い収束と子どもたちが本来の活動ができる日の到来を祈念する日々が続いて参りました。今年度、感染者数の波が夏と年末の二度到来する中、感染症対策が継続される一方で社会経済活動との両立が推進されてきました。令和五年二月十四日に開催した栃木県新型コロナウイルス感染症対策本部会議において、三月十三日以降はマスクの着用が原則個人の判断に委ねられることになり、一年前には考えられませんでした。が、ようやく「感染症発生前」の状態に徐々に戻りつつあると思うと感慨深いものがあります。今後、感染症対策は転換期を迎えることとなりますが、皆様におかれましては引き続き基本的な感染症対策の実施と情報の収集・確認について御留意くださるようお願い致します。

また、長期化するコロナ禍等社会情勢の影響による物価高騰、少子化、安全確保対策など幼稚園等を取り巻く環境は厳しさを増しております。県では各種事業に必要な支援に引き続き取り組んで参ります。

更に、今年度は「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」が開催され、各園においても様々な形で御協力いただいたものと存じます。改めて感謝申し上げます。

県では今後とも、市町との連携はもとより、オール栃木体制で子育て支援を着実に進めて参りますので、貴連合会及び幼稚園、認定こども園の皆様との更なる御理解と御協力をお願いいたします。令和四年度の振り返りといういたします。



(名誉ある受賞)

## 第七十三回

## 毎日書道展

## グランプリ

## 「会員賞」を受賞



認定おおぞらこども園

理事長 中川 祐慈先生

栃木県幼稚園連合会元副理事長の中川祐慈先生が、今年度の七月に、毎日書道展(刻字)でグランプリに輝かれた。毎日書道展は、出品数三万点を超える日本で最大規模の公募展である。

大学四年の時に書道を志して、二十七歳で本格的に研究するようになったという中川先生。平成七年、当時三十八歳の時にも毎日書道展で「毎日賞」を受賞した経歴を持つ。

刻字は、書くことも彫ることも要求される総合芸術のため、創作活動の時間捻出に苦慮され、夜が明けるまで彫り続けたこともあったという。

受賞を振り返る中川先生は、連絡を受けた時の驚きと、恩師や仲間、周囲の方々との縁に対して、深い感謝の思いを言葉にされていた。



「蘭亭蘭紙入昭陵」(毎日書道会HPより)

## 令和四年度 関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会栃木大会

期 日 令和四年十二月七日(水) 八日(木)

会場 オンラインのみ

参加者 十二月七日(水) 十二名

十二月八日(木) 十五名

### 大会主題

「豊かな心とたくましい力を育む」

### 教育メディアの活用

鹿沼市で開催された本研究大会では、放送や視聴覚教材の活用をテーマに、幼稚園から高等学校までの研究部会が構成された。

### 公開保育・公開授業

十二月七日(水)に行われた、保育・授業の公開は、事前録画した映像を視聴する形で、午前と午後の二回実施された。

幼稚園部会で公開保育を行なったのは、認定こども園鹿沼みどり幼稚園の〇歳児と一歳児で、担当したのは、同園の山口陽子先生。「体操をしよう!」という内容で、NHK教育テレビ番組のDVDを活用した保育を行なった。

### 分科会

十二月八日(木)の午前九時から開催された分科会は、幼稚園部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会に分けられた。幼稚園部会は、栃木県と東京都より各一名の提案者が発表し、それぞれに指導助言が行われた。いずれも放送教材の活用に関する発表であった。

### 栃木県

学校法人鹿沼みどり学園

鹿沼みどり幼稚園 山口陽子先生

### 発表内容

情緒の安定における信頼関係の成り立ち、NHK放送教材を活用した保育の実践から

### 指導助言者

栃木県総合教育センター

幼児教育指導員 野中悦子氏

### 東京都

学校法人聖愛学園

### 発表内容

「よい子」を押し付けられない道徳教育、「がんばーちゃん」の登場人物から学ぶ

### 指導助言者

社会福祉法人国立保育会

理事長室長 操木 豊氏

### 全体会・記念講演

十二月二十八日(木)の午後十三時二十分からは、全体会と記念講演がオンラインにて開催された。

### 記念講演 演題

感性コミュニケーション〜人工知能時代を生き抜く対話力〜

### 講師

株式会社感性リサーチ

代表取締役 黒川 伊保子氏

教育現場で急速に活用されるようになったICT機器は、使い方が次第で、より豊かなコミュニケーションを生み出すことも可能である。

近年の子どもたちは、を取り巻く環境は、



画面に触れる時間が増加しているが、個別の時間に偏らず、より一層関わり合いや対話する時間を大切にしたい。



## 送迎バスの置き去り防止を支援する安全装置のガイドラインについて

### 概要

①所在確認や安全装置の装備の義務付け

誰が運転・乗車するにかかわらず、バスの乗車・降車時に、幼児等の所在の確認が確実に行われるようにするため、幼児等の所在確認と安全装置の装備を義務付ける。

②安全管理マニュアルの作成

車側の対策である安全装置の装備との両輪として、送迎バス運行に当たって園の現場に役に立ち、かつ、分かりやすく、簡潔な安全管理の徹底に関するマニュアルを策定する。

③早期のこどもの安全を多作促進に向けた「こどもの安心・安全対策支援パッケージ」

●送迎バスへの安全装置導入支援

●登園管理システムの導入支援

●こどもの見守りタグ(GPS)の導入支援

●安全管理マニュアルの動画配信や研修の実施等

※送迎バスへの安全措置対象の一覧は内閣府ホームページにて、随時更新掲載。

(内閣府 送迎バスなどで検索)

# 研修会だより

## 令和四年度 設置者・園長研修会 研修Ⅰ

期日 令和五年一月二十日(金)

会場 ホテルニューイタヤ(天平の間)

参加 百十五名

(うちリモート参加 六十七名)

講師 処遇改善加算制度の変更について  
栃木県保健福祉部こども政策課  
子ども・子育て支援班

係長 横山 尚子氏

処遇改善加算制度の変更点

### I 保育士・幼稚園教諭等を対象とした 処遇改善について

令和三年十一月

に閣議決定された  
施策で、保育士・  
幼稚園教諭等の収  
入を三%(月額  
九千円)程度引き  
上げるための交付金を新設。予定より早  
く令和四年二月から開始される。



### II 経済対策による処遇改善

処遇改善を目的とした交付金として、  
特定教育・保育向け「保育士等処遇改善  
臨時特例交付金」を令和四年九月まで、  
幼稚園向け「教育支援体制整備事業費交  
付金」を十二月まで実施。あわせてそれ  
ぞれの単価、対象者、補助要件などの詳  
細について説明があった。

### III 制度変更後の処遇改善

特定教育・保育向けでは、十月より公  
定価格の加算として追加された。幼稚園

向けでは一月分  
からは「幼稚園  
運営費補助金」  
の中に組み込ま  
れ、それぞれ同  
様に三%(月額  
九千円)程度が  
改善となるよう  
変更となり、そ  
の他、前項同様  
の詳細について説明があった。



### IV 特定教育・保育施設における処遇改 善／処遇改善等加算Ⅱ(研修修了要 件と受講履歴の管理について)

最後に、処遇改善等加算Ⅱについて、  
これまで要件としてありながら延期と  
なっていた研修の修了要件の適用につ  
いて説明があった。

研修の要件は、コロナ禍などもあり、  
その摘要が延期となっていたが、昨今の  
受講の状況やその重要性を考慮し、令和  
五年度から段階的に摘要されることと  
なった。一分野(十五時間)が一つの単  
位となっているところを、令和五年度か  
ら中核リーダーや専門リーダーなどの教  
職員について一分野修了が必須となり、



毎年一分野ずつ  
必要な研修修了  
数が増加してい  
く。若手リー  
ダーなどが令和  
六年度からは一  
分野必須とな  
る。令和八年度  
からは当初予定  
されていた要件

となる予定である。また次年度から順次  
摘要となることから、自園の職員の研修  
受講歴を国、もしくは県の様式にて管理  
してほしいとの話であった。

奇しくもコロナ禍により、リモートに  
よる受講が可能となるなど、研修の環境  
にも変化があった。これからの保育のた  
めにも、適切な受講管理とともに、保育  
者へ様々な分野での受講を促し、より質  
の高い保育ができるよう心掛けたい。

## 令和四年度 設置者・園長研修会 研修Ⅱ

テーマ 栃木県幼児教育センターより

「日頃の感謝と情報提供パート②」

講師

栃木県幼児教育センター

副主幹

高木 恵美氏

黒川 貴広氏

はじめに、栃木県幼児教育セン  
ター副主幹 黒川貴広氏から大き  
な変更点として教  
員免許更新制度の  
廃止と、それに伴  
う教師の資質につ  
いて話があった。



黒川氏は、これか  
らの教師には自身の知識を与えるだけで  
なく、学びを引き出す「伴走者としての  
能力」が必要になると言っ。これは先導  
ではなく、ブラインドマソンのように  
走者の方向に付き添いつつ、時に助け修  
正する者として走者本人の力を最大限に  
発揮させ伸ばす役割であり、それがこれ  
からの子どもたちには必要で教師の役割  
になるとのことだ。免許状更新はなく  
なったが、将来を担う子どもたちのよき  
伴走者となるよう、園としても質の担保



としてしっかりと  
研修等に参加  
し子どもたちに  
保育を提供した  
い。

あわせて、セ  
ンターの事業と  
して「合同研修  
「幼小」」が市町  
で県と同様の内  
容を実施する場合は県と同一とみなすな  
ど、受講しやすい環境作りを行っている  
ことや、センター発行の「おうち」の紙  
媒体継続も含め、研修の申し込みや報告  
をネットを介して行えるようDX化の推  
進など、研修への積極的な取り組みと今  
後の課題について話を伺った。



続いてセンター長 高木恵美氏から  
は、センターの概  
要とその事業の内  
容について話が  
あった。とりわけ  
他県には見られな  
い、栃木県の幼児  
教育センターが独自に取り組んでいる幼  
小連携についての実施内容の紹介があっ  
た。これは地域の幼小連携・接続のため  
園と小学校の教師が一名ずつペアとな  
り、年に五回、五年間共に研修に参加し、  
互いに年長児や小学一年生の子どもの学  
びや生活について互いに学び合うそう  
だ。これにより相互に理解を図り、その  
後参加者は地域や園、小学校にて落とし  
込み、幼小接続が深まっているという。  
しかしながら、なかなか全ての園、小学  
校の接続がままなっていないとの思い



から、高木氏は本研修に参加している園の管理者に向けて「三時間三分」を子どもたちのために使ってほしいと言った。三時間とは、互いの長と職員二名を連れて授業を見に行くこと。三分とは卒園式や入学式の挨拶で、互いの長が互いに子どもたちを知っている、ということ伝える時間であり、一年の内の少しの時間を割いてもらいたい、と訴えた。他にも教育委員会への改革など、幼小接続への期待と、子どもたちの成長を願い、センターのお二方からの話は以上となった。

#### 令和四年度設置者・園長研修会 研修Ⅲ

テーマ 「しあわせ脳に育てよう！」

講師 (株)感性リサーチ

代表取締役 黒川 伊保子氏

冒頭から人間の脳を電気回路装置と見立てその仕組みを考えていくというお話から

始まった。そして、システムエンジニアという立場から人間関係をネットワークシステムと



みたてるといって斬新な考え方で脳の働きと人間関係を解いていかれた。

やる気、好奇心、集中力、記憶力、発想力、そして身長（体格）これらは脳内のホルモンによる神経信号処理によって養われる。

子育てにおける黄金ルールとして「早寝・早起き・朝ごはん・適度な運動」が大切である。なぜなら、脳は寝る間に成長するからである。また、食べることで分泌されるホルモン、運動する

ことによって分泌されるホルモン等によって脳が成長する事例とともに紹介された。

家族、相手との対話も脳の活性化に重要である。なぜなら、脳の働きの中に二つの働きがあり、そのどちらかによって人は、相手との対話をするとお話しくださった。それは、相手の投げかけに対して、寄り添いながら対処する働きと即時に解決策を見出すとする働きがある。どちらも脳の働きではあるが、寄り添い型の対処は女性に多く、即決型は男性に多いという特徴がある。しかし、人の関わりの中では、まずは、聞いてあげて、それから自分の意見を伝えるということが人間関係には必要ではないかとおっしゃられた。

最後に、脳の成長にとって大切なもののもう一つが笑顔で接する。特に母親の笑顔が脳の成長に大きな影響を与える。

#### 資質向上研修④「幼小連携」

期日 令和四年十二月十五日(木)

会場 オンラインのみ

テーマ 「幼小接続を考える（架け橋プログラムと生活の連続性）」

講師 國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科

教授 鈴木 みゆき 先生

はじめに、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）

の解説があり、「子どもを取り巻く問題」、「非認知能力について」、「幼保小をつなぐ」の三項目について、講師の軽妙な話術で、時代の生活リズムが推し量れるテレビ番組や絵本の例を織り交えて進めら

れた。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」には、非認知能力が込められている。その非認知能力を育てるということは脳を育てることだそう。脳を育てるには、乳幼児期に養育者との愛情形成と生活習慣を確立していくことが極めて重要だ。特に睡眠は成長ホルモンの分泌や記憶の整理などに大きな役割を果たしており、寝不足は情緒面や意欲、思考に悪い影響を及ぼす。早寝早起きをして生活習慣を整えることが、非認知能力を支え、学力や学習意欲を支えることは学力学習状況調査にも示されている。

幼保小の架け橋プログラムでは、幼保小が話し合い一緒にプロジェクトを進めていく。まず、保育や授業を互いに参観し子どもを見る時の視点の違いを認識することも大切である。また、架け橋プログラムでは、生活に関することが希薄である。子どもだけではなく保護者も巻き込んで就学を見据えた生活習慣への支援も大切だ。

今回の研修で、改めて基本的な生活習慣「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを痛感した。

#### 資質向上研修⑤

期日 令和五年一月二十七日(金)

会場 コンセーレ(大ホール)

参加 六十五名

（うちリモート参加 五十八名）

テーマ 「保育の質の向上と評価

「保育環境評価スケールを」

手がかりに」

講師

大阪総合保育大学／大学院 特任教授 堀橋 玲子 先生

今年度の資質向上研修最終回も会場参加とオンラインのハイブリットで行われた。まだまだ、オンラインでの参加が多数を占め会場での参加者は数名に留まった。

今回は、講師の訳書である「保育環境評価スケールECCES」を手がかりに保育の質の向上と評価について講話があった。



保育環境評価スケールとは、保育を行う上での共通の枠組み。保育環境の質を測るモノサシであり、調査と研修の二つの利用ができる。保育の質は大きく次の六つのサブスケールに分けられる。

- SS1 空間と家具
- SS2 養護
- SS3 ①言葉と文字（②言葉と絵本）
- SS4 活動
- SS5 相互関係
- SS6 保育の構造

このサブスケールは、さらに三歳以上は三十五項目、〇～二歳は三十三項目に細分化される。評価にはおおむね三時間を要するそう。評価はサブスケールごとと一点から七点のスコアがつき、その総合点の平均が五点以上であれば質の高い保育であるとみなされる。しかし、保育は満点を取れば良いというものではない。



幼児教育において育みたい資

若盛 清美 先生

埼玉県保育協議会 副会長

埼玉県保育士会 会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

## 第二回 〇・一・二歳児研修

期日 令和五年一月十八日(水)

会場 コンセーレ(大ホール)

参加 百二名

(うちリモート参加 八十五名)

テーマ 「温かな保育・愛着形成に必要なことを見直そう」

講師 幼保連携型認定こども園

こどものもり 副園長

埼玉県保育士会 会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

埼玉県保育士会 副会長

評価とは、点数をつけることではなく次に行くステップと考える。つまり保育環境評価スケールは、粗探しではなく、みんなが同じ枠組みをもとに話し合い基準をつくるために有効である。そのような使い方をすることで、保育が良くなるなり、保育が「わかる」、保育が「面白くなる」、すると子どもが変わる、そして先生のやる気になる、それが保育の質の向上につながる。

保育の評価と聞くと点数がつきあまり気持ちの良いものではなく否定的になりがちだが、同じ枠組みを持つことで、共通の基準で保育について話し合いができる。また、評価できていないことは次の課題であると捉えることにより、改善すべき点が明確になり効果的に保育の質を高めることができる。

今回研修を通して保育評価を否定的に受け止めるのではなく、保育の質の向上を図る効果的なツールとして保育の現場で活用して行くことが大切だと感じた。



質・能力は、乳児期からの各発達段階で、ふさわしい生活や遊びを積みあげてこそ培われるものである。本研修では、〇・一・二歳未満期の保育について、保育所保育指針と実際の場面に照らし合わせながら講話が進められた。

乳児期では、特定の大人との愛情豊かな応答的・受容的な関わりによって得られる喜びや安心の積み重ねが、人への信頼感の形成につながり、以降の保育の礎となる。また、一歳以上三歳未満児期では、安定した生活のなかで、子どもが自発的に何かをしようとした時に、信頼する大人が、その気持ちを尊重し、温かく見守ったり、愛情豊かに応答的に関わることによって、自己肯定感や非認知能力といった、生きるための様々な力の基礎が養われる。

それには、養護を基盤とした生活全体をとおして、子どもが主体的に周囲の人やものに興味を持ち、直接関わっていきける環境が必要である。

人的環境としての保育者が心に留めておきたいことは、一対一の関係性であること、また、保育者がゆったりとしていることである。子どもの生活のリズムに合わせたりゆったりとそこにいる。子どもが安心して遊び込めるようゆったりとそこにいる。子どもが不安で振り向いたときにニコニコとしてそこにいる、また、抱きしめてくれる。若盛氏の言葉一つひとつに、子どもと向き合う保育者の温かい眼差しや情景が目に見えてくる。

子どもの気持ちを否定せず、愛情豊かにその子の持ち味を満たしたり、欲求に応えたり、一緒に遊んだり、見守ったりすること、毎日、丁寧に、繰り返し積み重ねていくことが愛着形成の要である。

その他、異年齢の育ち合いも見たいといふことである。核家族が進むなかであるからこそ、園のなかできょうだいのような疑似体験ができるよう、小さい子は大きい子に親しみと憧れをもって、大きい子は小さい子を慈しみ、自分が保育者にしてもらったように世話をし、日常のなかで育ち合える環境の工夫が必要である。また、近所の人との触れ合いや多様な人々との関わりから培えることについても考えていきたい。子どもは環境をとおして育つゆえ、人的環境を基に物的環境を考えてみるという視点も留めておきたいところである。

生涯の学びの出発点ともいえる〇・三歳未満期にどれだけの愛情をもってかかわれるか。また、その関わり様が育ちの要であることを再認識し、子ども一人ひとりを尊重しながら保育にあたっていきたいと心新たにできる研修であった。



## 寄贈品紹介

なわとび・長なわの寄贈

令和五年二月二十日(月)



こくみん共済(全労済)様より、子どもたちの健康的な成長を支援する「子どもの成長応援プロジェクト」の一環として、同栃木県推進本部の部長印南 幸裕氏がおみやや幼児教育センターを訪れ、「なわとび・長なわ」が寄贈された。



昨今、子どもたちの体力低下が叫ばれるなか、寄贈された長なわに興味津々で楽し気にあそぶ園児たちが印象的だった。  
(なお、今回は寄贈できる「なわとび・長なわ」には数に限りがあったことから、理事・監事の園のみに配布された)



## 令和5年度私立幼稚園関係予算案

(単位：千円)

| 事業名                 | 令和4年度<br>予算額 | 令和5年度<br>予算額(案)  | 概要                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------|--------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 幼稚園運営費補助金         | 1,283,899    | 1,069,895        | 学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成<br>(1)園児1人当たり 205,100円(R4 202,800円)<br>3～5歳 4,348人 満3歳 628人<br>(2)一種免許状加算分 2,373千円<br>(3)処遇改善加算分 46,944千円                                                                                                    |
| 2 地域子育て推進事業費補助金     | 130,750      | 109,950          | 私立幼稚園及び認定こども園が実施する子育て支援事業に対する助成<br>(1)子育てランド事業 20,530千円<br>(2)わんぱく保育推進事業 89,420千円                                                                                                                                                   |
| 3 栃木県私立幼稚園振興財団補助金   | 262,214      | 266,530          | 私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成<br>・補助率 教職員標準給与額の30/1000                                                                                                                                                                 |
| 4 特別支援教育費補助金        | 478,632      | 545,272          | 特別支援を要する園児が就園する私立幼稚園及び認定こども園に対し、その経費の一部を助成<br>学法 784千円／人(国庫、県単)<br>学法以外 392千円／人(県単)                                                                                                                                                 |
| 5 授業目的公衆送信補償金助成費    | 400          | 320              | 授業目的公衆送信補償金制度の活用に対する助成                                                                                                                                                                                                              |
| 6 私立学校教職員共済補助金      | 169,010      | 171,786          | 長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助                                                                                                                                                                                                            |
| 7 栃木県私学団体補助金        | 6,000        | 6,000            | 栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成<br>・補助率 定額(1/2以内)                                                                                                                                                                                            |
| 8 幼稚園緊急環境整備事業費      | 103,159      | 81,245           | (1)学校法人立幼稚園及び認定こども園が行う遊具等環境整備に対する助成<br>・補助率 認定こども園 1/2、左記以外幼稚園 1/3<br>(2)新型コロナウイルス感染症対策に対する助成<br>(幼稚園及び幼稚園型認定こども園)<br>・補助率 10/10<br>(3)認定こども園等における研修支援<br>・補助率 1/2<br>(4)認定こども園等への移行支援<br>・補助率 1/2<br>(5)園務改善のためのICT化支援<br>・補助率 3/4 |
| 9 子どものための教育・保育給付費   | 12,118,927   | 12,133,653       | 施設型給付等に係る市町への負担金及び補助金<br>・県負担割合 全国統一費用部分 1/4<br>(1号園児は地方単独費用部分1/2あり)                                                                                                                                                                |
| 10 一時預かり事業          | 249,254      | 272,246          | 一時預かり事業を実施する市町に対する助成<br>・県補助率 1/3                                                                                                                                                                                                   |
| 11 認定こども園整備事業       | 705,395      | 0                | 認定こども園の幼稚園部分の施設整備事業を実施する市町に対する補助<br>・補助率 1/2<br>※R5年度からは就学前教育・保育施設整備交付金に一本化                                                                                                                                                         |
| 12 第3子以降保育料等免除事業費   | 515,404      | 519,554          | 第3子以降の未就学児の保育料等免除事業を実施する市町に対する助成<br>・県補助率 1/2                                                                                                                                                                                       |
| 13 子育てのための施設等利用給付費  | 609,678      | 554,470          | 私立幼稚園(私学助成)等の利用料無償化に係る市町への負担金                                                                                                                                                                                                       |
| 14 こどもの安心・安全対策支援事業費 | —            | 73,320<br>(R4繰越) | 幼稚園等における送迎バス用バスの安全装置整備に対する助成<br>(1)送迎用バスへの安全装置の導入費 32,600千円<br>(2)登園管理システムの導入費 29,680千円<br>(3)安全対策機器等の導入費 11,040千円                                                                                                                  |
| 計                   | 16,632,722   | 15,730,921       |                                                                                                                                                                                                                                     |

### 令和5年度予算案の内容について

今回、特にお願い申し上げたのは、栃幼振興財団における退職金補助金の交付率の引き上げ「29/1000」から「30/1000」についてですが、要望通りの回答を得る事ができました。

コロナ禍で予算編成が大きく揺れる中、全園にとってメリットのある回答を得られた事は、大きな喜びであります。

また令和4年度中の補正において、物価高騰による負担軽減を図るため「保育施設等物価高騰対策支援事業費」(15万円/施設)の交付に取り組んでいたました。

これらは福田知事をはじめ自民党県議の皆様、県庁関係各部署の皆様が、オール栃木で幼児教育の重要性を理解していただいていることの結果だと認識しております。

間もなく統一地方選挙が控えています。今後とも皆様様の更なるお力添えをいただきながら、石嶋会長・船田理事長を先頭に、各設置者・園長先生方の情熱を結集し、引き続き全園一丸となって振興活動を展開して参りましょう。

振興委員長 富川 将



## 幼児教育センターだより



今年度も各研修や調査研究等、幼児教育センター事業への御協力ありがとうございました。

### 新規採用幼稚園教諭等研修を振り返って

昨年十二月二十日、二十一日に、全日程が終了しました。

最終日となる第九日は、「指導計画の作成・明日の保育を考える」についての講話と、保育映像を通しての演習を行い、それを基に指導助言者の下で日案を作成しました。その後、「発達特性を踏まえる」の講話を行い、閉講式を迎えました。

新採者から「子どもが安心して園生活を送れるように、子どもの心に寄り添いながら保育を行っていきたい」「子どものよいところをたくさん見付けて伸ばしていきたい」という保育者としての自覚と責任をもって、自分自身も楽しみながら、よりよい保育をしたい」「笑顔絶やさず子どもたちと接すること、保護者からも信頼されるような保育者になることを心掛けていきたい」など、今後の保育に希望を抱くような振り返りが多く寄せられました。



また、指導助言者から「話し合いも活発になり、保育のことを語り出すと止まらなくなる姿から成長を感じた」という感想もいただきました。

今後の御活躍を心より応援しております。



### 中堅幼稚園教諭等資質向上研修を振り返って

一月六日に、中堅幼稚園教諭等資質向上研修の全日程が終了しました。年間を通じて、今後の柘木県の幼児教育をミドルリーダーとして担っていく四十三名が受講しました。

カリキュラムマネジメント、組織マネジメントを軸に、園のミドルリーダーとして各課題を深く考えていく内容の濃い研修となっていました。他園の同じ立場の受講者との協議を通して、さらに視野を広げました。受講者の感想を紹介します。

同じ立場の他の園の先生方と話すことができて、励まされる研修だった。

ミドルリーダーとしての自覚をもち、園全体の保育の質の向上や職員の育成等、自身の役割を全うしていきたい。



先生方の今後の御活躍に期待しております。

## 柘木県教育研究発表大会 幼小連携部会

一月二十八日に、オンラインで開催しました。幼小の教職員や行政職員、学生など、六十七名の参加があり、「架け橋期の教育の充実に向けて」「赤見地区の取組から」をテーマに、実践発表及び座談会を行いました。

実践発表では、幼小のカリキュラム接続の取組を始めた経緯等について、認定こども園あかみ幼稚園の中山昌樹理事長より発表がありました。



認定こども園あかみ幼稚園 中山昌樹 理事長



座談会の様子

座談会では、取組が始まったときの思いや、七年間を通して感じた成果や課題などについて、認定こども園、小学校、市教育委員会のそれぞれの立場から熱く語られました。小学校からは、「幼児教育を知らないのはもったいないこと」というお話もありました。この度の発表が、各園、各学校、各地域等で幼小接続を推進するための一助となることを願っています。

## 令和四年度幼児教育調査研究成果物について

「幼児教育・保育の質を高める園の学校評価」について、PDCAサイクルの構築を目指した学校評価の具体的な内容や方法を、研究協力園の認定こども園愛泉幼稚園の実践を中心に紹介します。次年度四月の配布を予定しております。

### ★お知らせとお願い★

三月九日の発送でお届けします。

#### ★「幼児教育センター研修案内」

↓毎年度送付しております、黄色の冊子です。令和五年度の幼児教育センターにおける研修予定が分かります。なお、今回からは、研修の申込みを原則Webによる申込みにさせていただきます。

#### ★「受講の記録」

↓オンライン実施等により、研修当日に配布できなかったものです。左の研修が対象です。

・トップセミナーⅡ

・合同研修（幼小）

・教育課程研究集会（幼児教育）

★令和五年度「幼稚園等教職五年目研修」と「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」の照会（文書）

↓こちらの研修は、「幼児教育センター研修案内」から申し込むことができます。

お手数ですが、受講対象者の御報告をお願いいたします。



FAXの利用をメールやWebに移行するなど、DX推進を順次進めていきます。



## こども政策課だより

### 各種提出書類について

#### 運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二三年四月中旬（予定）です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに二〇二三年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いします。

#### 教材費等補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二三年四月中旬（予定）です。

#### 運営費補助金及び教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに二〇二三年四月上旬（予定）です。

#### 二〇二三年度決算書及び二〇二三年度予算書の提出について

二〇二三年度決算書及び二〇二三年度予算書の提出期限は、二〇二三年六月三十日（金）です。決算書等（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園・認定こども

園宛てに別途メールでお送りします。

#### 資産総額の変更登記済届

二〇二三年度決算に伴う資産総額の変更登記は、寄附行為で定める期限（五月末日又は六月末日）までに、期限後一ヶ月以内に登記済届を提出してください。

#### 認定こども園運営状況報告書

認定こども園法第三十条等の規定に基づき作成をお願いします。提出期限は二〇二三年五月下旬（予定）です。（園児数調査のみ五月上旬（予定）です。）

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限の提出をお願いします。

### 通園用自動車の安全装置の設置等の義務化について

二〇二三年四月一日から、通園や園外活動で園が自動車を運行する場合は乗降車時における子どもの所在確認が義務付けられるほか、通園で自動車を運行する場合はブザー等の安全装置の設置が義務付けられます。（ブザー等の設置は一年間の経過措置期間があります。）

幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む）は文部科学省、幼保連携型認定こども園及び保育所（保育所型認定こども園含む）は厚生労働省の補助事業がありますので、県及び各市町の関係通知を御覧ください。

## 令和五年四～六月までの事業計画

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 4月5日  | ①新規採用幼稚園教諭等研修（集合研修） |
| 4月19日 | 新採教諭研修（宿泊研修・代替研修）   |
| 4月28日 | 資質向上研修（自然環境）        |
| 5月11日 | ※5年目研修              |
| 5月23日 | ※幼小接続推進者研修          |
| 5月24日 | 栃幼連定時総会（令和4年度決算総会）  |
| 5月26日 | ②新採研 公開保育（宇大附属幼稚園）  |
| 5月31日 | 0・1・2歳児研修           |
| 6月6日  | ※中堅幼稚園教諭等資質向上研修     |
| 6月14日 | ※教育課程研究集会           |
| 6月15日 | 保育セオリー講座            |
| 6月16日 | 全私幼退団協議会総会（熊本県）     |
| 6月17日 | 公開保育研究会（宇大附属幼稚園）    |
| 6月19日 | 0・1・2歳児研修           |
| 6月21日 | ※指導助言者説明会           |
| 6月26日 | ※幼児期の特別支援教育研修       |
| 6月27日 | ③新採研 公開保育（宇大附属幼稚園）  |
| 6月29日 | 設置者・園長研修会           |
| 6月30日 | 青年部全体委員会・研修会        |
|       | ※は幼児教育センター事業        |

### \*総会予告\*

### 令和五年年度 栃幼連 定時総会

（令和四年度 決算総会）  
令和五年五月二十四日（水）  
会場：コンサール

### 計 報

- 下野市 認定こども園野ばら幼稚園  
元理事長 伊澤 ぬい 先生  
令和四年十一月二十七日 逝去
  - 日光市 輪王寺附属日光幼稚園  
前園長 根村 隆宣 先生  
令和四年十二月十七日 逝去
  - 真岡市 にのみや認定こども園  
元理事長・園長 上野 一男 先生  
令和四年十二月二十日 逝去
  - 小山市 認定こども園静林幼稚園  
理事長 伊澤 幸介 先生  
令和五年一月三日 逝去
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 編集後記

夜のニュース番組で、キャスターがウクライナのキーウからレポートしていた。ある家庭を訪問していたが、子どもは三人で、父親は一年前から志願して戦場に向かい戦っているという。三歳と六歳の女の子が民族衣装を着て出迎えた。母親は、父親からは定期的な連絡があるが戦場の画像は幼い子どもにはショックを与えるので送ってこないと言う。母親と子どもたちは、空襲を避けて、地下鉄の駅で五週間生活したこともあろうだ。今は、アパートに住んでいるが、空襲警報や飛行機の音が聞こえると恐怖に駆られるそう

今月十六日のウクライナ検察当局の発表によると、この戦争で少なくとも四百五十五人の子どもが死亡し、負傷した子どもは八百九十七人に上ると言うが、実際はもっと多いという。また、親が戦闘や爆撃等で死亡すれば、その子どもは悲しい境遇に置かれる。これは、戦争当事国双方の子どもに共通である。いつの時代も戦争の最大の被害者は子どもである。

今、我が国では少子化が進み、待ったなしの事態になっている。コロナ禍も追い打ちをかけている。これでもし近隣諸国との関係が悪化して子育てや子どもの将来に不安がつのれば、ますます少子化は進むのではないかと危惧する。国をリードする方々には、少子化対策と同時に近隣諸国との友好関係を大切にし、子どもたちの未来に平和と希望を相続してほしいと思う。（今市幼稚園 桑門秀光）